

開校48周年 一人ひとりを確実に伸ばす慈林小学校



# 慈林小だより



令和6年10月号 令和6年10月1日

“やる気スイッチ”をONにしよう

校長 鈴木真由美

厳しかった残暑も彼岸過ぎには落ち着きを見せ、ようやく秋風の心地よさを感じられるようになりました。保護者・地域の皆様におかれましては日頃より慈林小学校に温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。

季節の変わり目は天候が不安定になるものですが、9月28日（土）の秋季運動会は天候が大きく崩れることなく、子供たちの頑張りとお保護者・地域の皆様のご協力により、何とか無事に終えることができました。

子供たちは、保護者・地域の皆様のあたたかいご声援に背中を押していただき、どの学年の子供たちも練習の成果を発揮して運動会本番で最も輝く姿を披露してくれました。応援したくなる素直でひたむきな子供たち、地域に誇る素晴らしい慈林子たちです。皆様のご支援とご協力に感謝申し上げます。

さて、勉強に限らず、スポーツや楽器などの習得、その他様々な活動は、一定の努力や取組をしなければ成果や効果を実感することはできません。「やる気スイッチが入れば、頑張るんだけどな…」と思うのは、大人も子供も同じではないでしょうか。では、どうすれば「やる気スイッチ」が入るのでしょうか。それは、「やる気を出すために、**とりあえずやり始める**」ことがポイントだそうです。一説によりますと「やる気」には脳の「側坐核」という部位が大きく関わっており、作業や活動などをやり始めることで側坐核が活性化し、活動意欲の持続に繋がるそうです。生活の中で決めた時間になったらまずやり始める、アラームが鳴ったらとりあえずやり始めるなどの、きっかけを仕組んでおくことがよいようです。その話を聞き、なるほど学校のチャイムや時間割は理にかなっているものだ、改めて思いました。加えて、読みかけの本は目につくところに置いておく、勉強したいドリルやテキストはページを開いておく、練習中の楽器はすぐに触れるようにしておくなど、お子さんでもできるちょっとした工夫も効果がありそうです。

気温が下がり過ごしやすくなる秋は、スポーツや読書、趣味の活動、習い事の練習などによい季節です。継続して取り組むことを決めたら、「〇時になったらテレビを消して、読書の続きをしよう」「アラームがなったら、ゲームをやめて〇〇をやり始めよう」「予定通りできたら、カレンダーや手帳にシールを貼ろう」など、目標とする行動を具体的に決めて、大人も子供もゲーム感覚で取り組んでみてはいかがでしょうか。うまくいけば、冬を迎える頃にはこれまで億劫だったことが習慣化され、自分自身の成長や効果を実感できるかもしれません。子供たちのやる気スイッチがONになり、得意を伸ばして自信に繋がっていきけるよう、学校でも働きかけていきます。ご家庭や地域でも子供たちへの温かい励ましや声掛けを、どうぞよろしくお願いいたします。